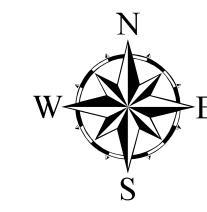


想定東南海・南海地震による熊野灘津波防災情報図広域版（進入図）

計算条件：最高水面・150mメッシュ

隆起量：平均-9cm (-71cm~65cm)

この図は、想定東南海・南海地震により発生する津波を150mメッシュで計算した概要版であり、港湾や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、津波防災情報図（50mメッシュ）のある海域はそれを参考にしてください。



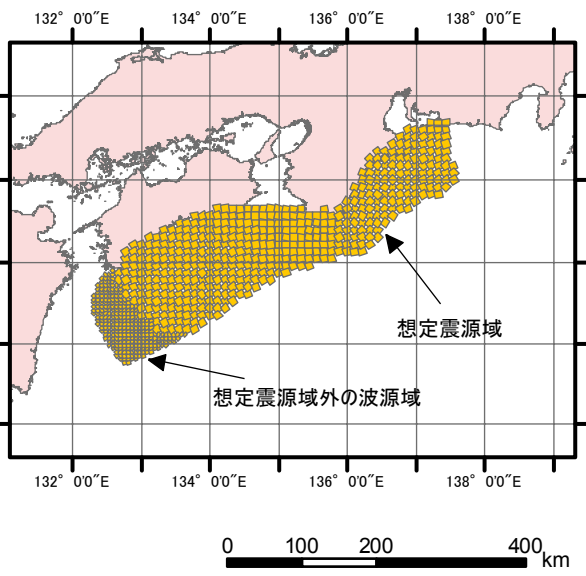
1:150,000

座標系：メルカトル図法 (Lat 35)
測地系：世界測地系 (WGS84)

凡例

- 水位上昇 (+10cm)となる等時線(分)
- 経時変化図出力点
- 最大水位上昇
 - 600~最大960cm
 - 550~600cm
 - 500~550cm
 - 450~500cm
 - 400~450cm
 - 350~400cm
 - 300~350cm
 - 200~250cm
 - 150~200cm
 - 100~150cm
 - 50~100cm
 - 50cm未満
- 進入時最大流 [knot]
 - 3knot
 - 2knot
 - 1knot

想定震源域と波源域の位置

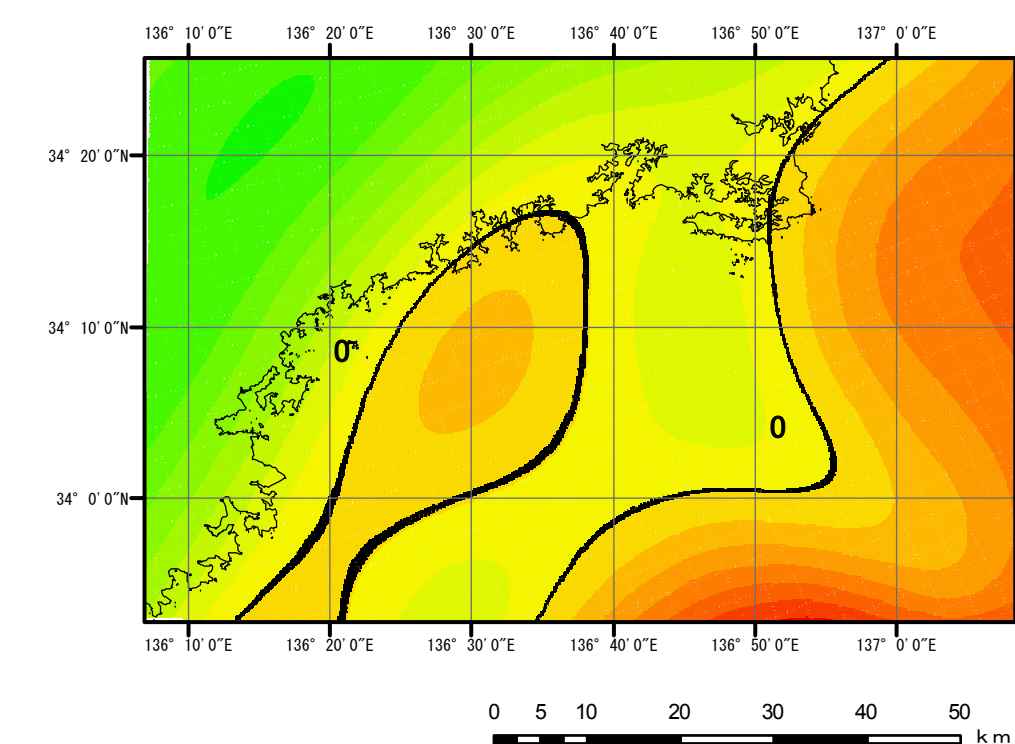


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N-m)	8.34 X 10 ¹⁷	2.15 X 10 ¹⁷
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用しています。

地盤変動図

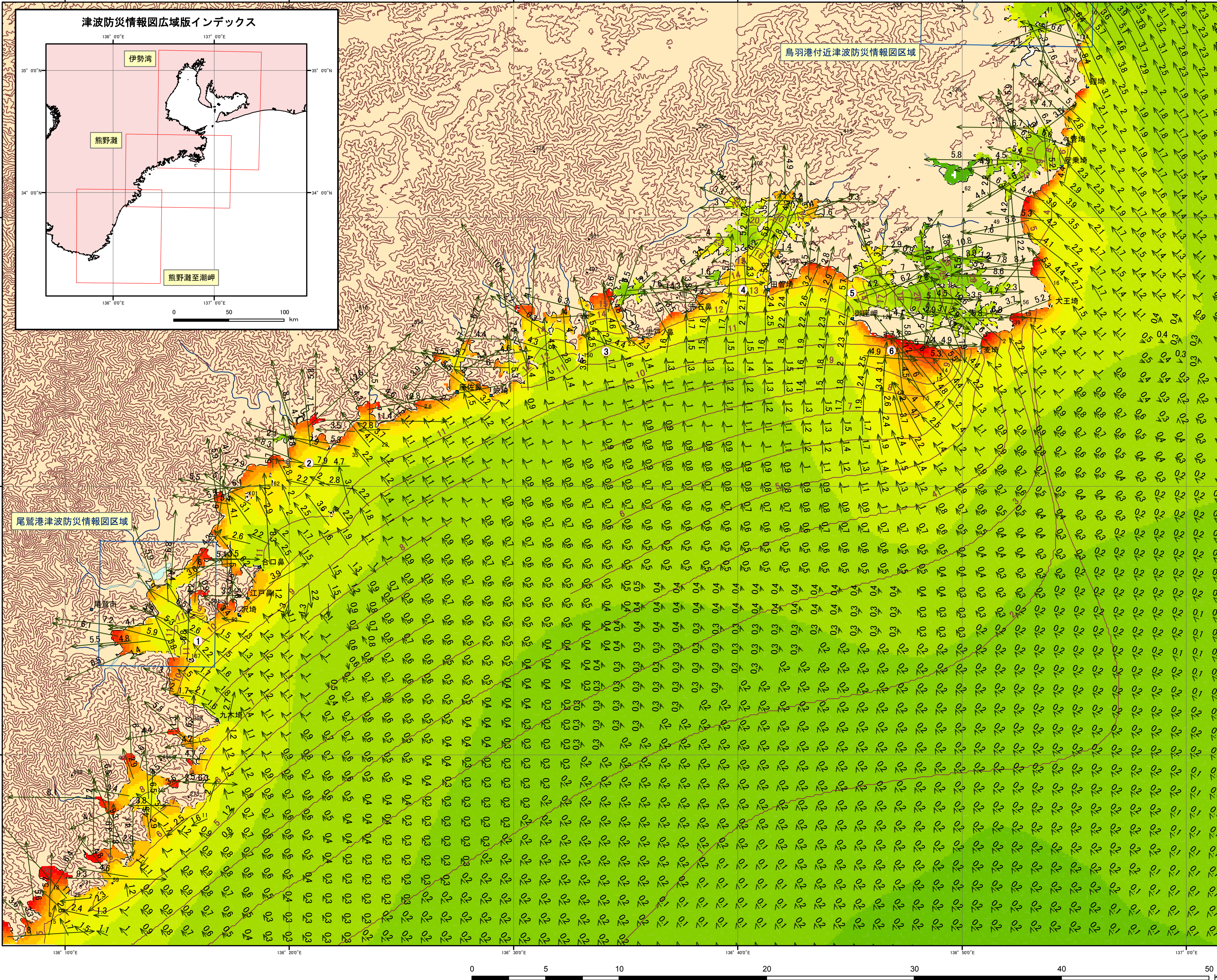
隆起量：平均-9cm (-71cm~65cm)



凡例

- ### 地盤変動量
- 60 ~ 最大65cm
 - 50 ~ 60cm
 - 40 ~ 50cm
 - 30 ~ 40cm
 - 20 ~ 30cm
 - 10 ~ 20cm
 - 0 ~ 10cm
 - 10 ~ -0cm
 - 20 ~ -10cm
 - 30 ~ -20cm
 - 40 ~ -30cm
 - 50 ~ -40cm
 - 60 ~ -50cm
 - 70 ~ -60cm
 - 最大-71 ~ -70cm

・この地盤変動図は想定東南海・南海地震で発生する地盤の隆起量を表示している。



・この図は、発生時から5時間のシミュレーションを行い作成しており、最大流速の矢印は150mメッシュ9×9（1,350m×1,350m）の81個から最大の津波（押波）の速さと方向を表示しています。
 ・表示されている流速矢印は津波による流速と流向のみで、海潮流の影響は考慮されていません。
 ・津波の到達時間を表示した等時線は、水位が10cm上昇した時点を示したものです。
 ・計算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。
 ・陸部の情報は海図から採用しています。

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

・この図は、最高水面を基準面（0cm）として、5時間の津波の水位変動と流速ベクトル（流速・流向）を表示しています。
 ・0分（発災時）の水位値は、その地点における地盤変動（隆起又は沈下）を表示しています。
 ・津波による潮位の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
 ・経時変化図の図表事項
 平均水面・・・潮位が無いと仮定したときの海面（その海域の平均水面）を赤破線で示す。
 水位変動・・・刻々と時系列で変わる津波の水位変動を果線で示す。
 流速ベクトル・・・水位変動時における水平方向の海水の動きを、流速（長さ・色）と流向（360°方位）で示す。

流速 赤：2.1ノット以上
青：1.0ノット以上
黒：1.0ノット以下

